

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2022003

プロジェクト名 花火やミニかまくらを通じて日大生の心にも「明かり灯し」たい

プロジェクトの概要

主な目的は「多くの学生を巻き込んで、明るい気持ちにすること」である。10月の学園祭との共同企画の「花火打ち上げ」に始まり、1月の学内でのミニかまくらの作成、最後におよそ3年ぶりの開催となる秋田県横手市のかまくら祭りに参加し、地域の方との活発な交流を行い、若手の担い手不足への貢献を果たしつつ、学生が明るい気持ちになれることを目指した。

プロジェクトの結果・成果

まず10月の学園祭一日目最後の「花火打ち上げ」は、8名の学生で協力、業者と話し合いを重ね15発打上げた。時間にして数分ではあったが、構内各所で約300名の学生・近隣住民に見ていただいた。晴れた夜空に放たれた数瞬の輝きは、心の繋がりを感じた瞬間であった。

11月、当初の予定にはなかったが、同じく自主創造プロジェクトを展開する生産工学部の学生が地域を灯す「キャンドル」を作るワークショップのイベントを企画していると聞き、参加させていただいた。他プロジェクト参加は非常に参考になり、余ったキャンドルも引き継いだ。

1月、予想以上に積雪量が少なくミニかまくらの作成は断念し、代わりに学内のハットNE前の階段に、引き継いだキャンドルを装飾するイベントに切り替えた。この日は秋田に行くメンバーの半数以上を占める25名ほどが参加し、キャンドルを工学部でも活用できた達成感を感じつつ、2月に向け協力して活動することができた。

2月、1年間温めてきたミニかまくら本番、工学部、法学部、生物資源科学部、学部卒業生も含めて38名が参加した。本プロジェクトは、令和元年度プロジェクトからの継続であるが、地元で就職した前回のプロジェクトリーダーにも参加いただき、学部間交流だけでなく、校友との交流もできた貴重な経験であった。生産工学部から引き継いだキャンドルは、特設ブースを用意していただき、ミニかまくらにキャンドルを入れた装飾を実現することができた。習志野で使ったキャンドルを横手で使うのは資源の再利用としても良かった。県外からの地域貢献の可能性や体験して初めて気づくやりがいを、私を含め皆で実感し共有することができた。

延べ50名の参加により日大生を明るくすることを目標にしていたが、計71名の参加、さらには秋田の地元新聞にも取り上げられ、学生だけでなく地域の方の心も明るくし、成功を感じた。

活動写真

